

科 目	真宗学概説	開講時期 履修方法	2年前期 必修、専門科目
担当者	中島 航・三明智彰	授業形態 単位数	講義 2単位
授業概要	私たちは自分の思いに先立って願われている存在である。そのことを『大無量寿経』本願文（第十二願から第十六願）から学ぶ。読解・講義・確認・攻究・発表を行う内容とする。 本授業は仏教学科の学習成果(1)に対応する。		
到達目標	本願文の学習を通して、すべての科目の基本軸として、出遇うべき仏教の精神を確認することができる。		
学習成果の 評価基準	講義の準備、講義中、また学習・攻究において積極的な学びができているかを確認し評価する。 学期末に学びの振り返りとしてレポート試験を実施する。		
	授 業 計 画 (授 業 内 容)	授業時間外学習 予習・復習	
1 .	ガイダンス 授業の進め方について	本願文を学ぶとは	
2 .	第一願から第十一願を振り返って 講義	第一願から第十一願の確認	
3 .	第一願から第十一願を振り返って 確認	ノート整理	
4 .	第一願から第十一願を振り返って 学習・攻究	課題の探求	
5 .	第十二願 光明無量の願 講義	第十二願文読解	
6 .	第十二願 光明無量の願 学習・攻究	第十二願について考える	
7 .	第十三願 寿命無量の願 講義	第十三願文読解	
8 .	第十三願 寿命無量の願 学習・攻究	第十三願について考える	
9 .	第十四願 声聞無数の願 講義	第十四願文読解	
10 .	第十四願 声聞無数の願 学習・攻究	第十四願について考える	
11 .	第十五願 眷属長寿の願 講義	第十五願文読解	
12 .	第十五願 眷属長寿の願 学習・攻究	第十五願について考える	
13 .	第十六願 無諸不善の願 講義	第十六願文読解	
14 .	第十六願 無諸不善の願 学習・攻究	第十六願について考える	
15 .	まとめ	これまでの確認	
教科書	『本願文』（大阪伝研の会）		
参考書	『真宗聖教全書一』、『真宗聖典』、『新漢語林』、『岩波仏教辞典』		
学習成果の 評価方法	受講態度（50％）、授業内発表（20％）、定期試験（30％）		
特記すべき 事項	各授業において予習2時間、復習2時間を必要とする。		
質問・相談等 の 受 付			

科 目	真宗学概説	開講時期 履修方法	2年後期 必修、専門科目
担当者	中島 航・三明智彰	授業形態 単位数	講義 2単位
授業概要	私たちは自分の思いに先立って願われている存在である。そのことを『大無量寿経』本願文（第十七願から第二十二願）から学ぶ。読解・講義・確認・攻究・発表を行う内容とする。 本授業は仏教学科の学習成果(1)に対応する。		
到達目標	本願文の学習を通して、すべての科目の基本軸として、出遇うべき仏教の精神を確認することができる。		
学習成果の 評価基準	講義の準備、講義中、また学習・攻究において積極的な学びができているかを確認し評価する。 学期末に学びの振り返りとしてレポート試験を実施する。		
	授 業 計 画 (授 業 内 容)		授業時間外学習 予習・復習
1 .	第十七願 諸仏称名の願 講義		第十七願文読解
2 .	第十七願 諸仏称名の願 学習・攻究		第十七願について考える
3 .	第十八願 至心信楽の願 講義		第十八願文読解
4 .	第十八願 至心信楽の願 講義		第十八願文読解
5 .	第十八願 至心信楽の願 学習・攻究		第十八願について考える
6 .	第十九願 至心発願の願 講義		第十九願文読解
7 .	第十九願 至心発願の願 学習・攻究		第十九願について考える
8 .	第二十願 至心回向の願 講義		第二十願読解
9 .	第二十願 至心回向の願 学習・攻究		第二十願について考える
10 .	第二十一願 具三十二相の願 講義		第二十一願読解
11 .	第二十一願 具三十二相の願 攻究		第二十一願について考える
12 .	第二十二願 還相回向の願 講義		第二十二願読解
13 .	第二十二願 還相回向の願 講義		第二十二願読解
14 .	第二十二願 還相回向の願 学習・攻究		第二十二願について考える
15 .	まとめ		これまでの確認
教科書	『本願文』（大阪伝研の会）		
参考書	『真宗聖教全書一』、『真宗聖典』、『新漢語林』、『岩波仏教辞典』		
学習成果の 評価方法	受講態度（50％）、授業内発表（20％）、定期試験（30％）		
特記すべき 事項	各授業において予習2時間、復習2時間を必要とする。		
質問・相談等 の 受 付			

科目	教行信証概説	開講時期 履修方法	2年前期 必修、専門科目
担当者	青木 玲	授業形態 単位数	講義 2単位
授業概要	親鸞の主著『顕浄土真実教行証文類』（『教行信証』）を読むことを通して、親鸞が明らかにした仏道を学ぶ。前期は、「総序」を読んでいく。 本授業は仏教学科の学習成果(1)に対応する。		
到達目標	浄土真宗の基本的な聖教、および釈尊、親鸞について理解できる。（知識） 自分で聖教を読むことができ、自らの課題を発見することができる。（思考力） 様々な文献を読んで、自らの課題を深めていくことができる。（判断力） 自らの課題を論文や発表、法話という形で表現することができる。（表現力） 『教行信証』『総序』の内容が理解できるようになる。		
学習成果の評価基準	到達目標に達しているか確認するために、到達目標確認試験を行い評価する。		
	授業計画（授業内容）	授業時間外学習 予習・復習	
1.	授業概要	予習：「総序」を読み、分からない言葉を調べる。 復習：授業を振り返り、疑問点を調べる。	
2.	『教行信証』の概要	予習：「総序」を読み、分からない言葉を調べる。 復習：授業を振り返り、疑問点を調べる。	
3.	『教行信証』の概要	予習：「総序」を読み、分からない言葉を調べる。 復習：授業を振り返り、疑問点を調べる。	
4.	「総序」の構成	予習：「総序」を読み、分からない言葉を調べる。 復習：授業を振り返り、疑問点を調べる。	
5.	「竊以」と「謹案」	予習：「総序」を読み、分からない言葉を調べる。 復習：授業を振り返り、疑問点を調べる。	
6.	難思の弘誓と無碍の光明	予習：「総序」を読み、分からない言葉を調べる。 復習：授業を振り返り、疑問点を調べる。	
7.	難思の弘誓と無碍の光明	予習：「総序」を読み、分からない言葉を調べる。 復習：授業を振り返り、疑問点を調べる。	
8.	『観無量寿経』序分	予習：「総序」を読み、分からない言葉を調べる。 復習：授業を振り返り、疑問点を調べる。	
9.	『観無量寿経』序分	予習：「総序」を読み、分からない言葉を調べる。 復習：授業を振り返り、疑問点を調べる。	
10.	逆謗闡提を恵まんと欲す	予習：「総序」を読み、分からない言葉を調べる。 復習：授業を振り返り、疑問点を調べる。	
11.	円融至徳の嘉号と難信金剛の信楽	予習：「総序」を読み、分からない言葉を調べる。 復習：授業を振り返り、疑問点を調べる。	
12.	円融至徳の嘉号と難信金剛の信楽	予習：「総序」を読み、分からない言葉を調べる。 復習：授業を振り返り、疑問点を調べる。	
13.	円融至徳の嘉号と難信金剛の信楽	予習：「総序」を読み、分からない言葉を調べる。 復習：授業を振り返り、疑問点を調べる。	
14.	到達目標確認試験	予習：「総序」を読み、分からない言葉を調べる。 復習：授業を振り返り、疑問点を調べる。	
15.	前期のまとめ	予習：「総序」を読み、分からない言葉を調べる。 復習：授業を振り返り、疑問点を調べる。	
教科書	『真宗聖典』		
参考書			
学習成果の評価方法	受講態度（50%）到達目標確認試験（50%）		
特記すべき事項	各授業において、予習2時間、復習2時間。		
質問・相談等の受付			

科目	教行信証概説	開講時期 履修方法	2年後期 必修、専門科目
担当者	青木 玲	授業形態 単位数	講義 2単位
授業概要	親鸞の主著『顕浄土真実教行証文類』（『教行信証』）を読むことを通して、親鸞が明らかにした仏道を学ぶ。後期は、「別序」と「後序」を読んでいく。 本授業は仏教学科の学習成果(1)に対応する。		
到達目標	浄土真宗の基本的な聖教、および釈尊、親鸞について理解できる。（知識） 自分で聖教を読むことができ、自らの課題を発見することができる。（思考力） 様々な文献を読んで、自らの課題を深めていくことができる。（判断力） 自らの課題を論文や発表、法話という形で表現することができる。（表現力） 『教行信証』『総序』の内容が理解できるようになる。		
学習成果の評価基準	到達目標に達しているか確認するために、到達目標確認試験を行い評価する。		
	授業計画（授業内容）	授業時間外学習 予習・復習	
1.	「別序」の構成	予習：「総序」を読み、分からない言葉を調べる。 復習：授業を振り返り、疑問点を調べる。	
2.	「如来選択の願心」と「大聖矜哀の善巧」	予習：「総序」を読み、分からない言葉を調べる。 復習：授業を振り返り、疑問点を調べる。	
3.	「如来選択の願心」と「大聖矜哀の善巧」	予習：「総序」を読み、分からない言葉を調べる。 復習：授業を振り返り、疑問点を調べる。	
4.	沈迷の二機	予習：「総序」を読み、分からない言葉を調べる。 復習：授業を振り返り、疑問点を調べる。	
5.	「愚禿釈親鸞」の名のり	予習：「総序」を読み、分からない言葉を調べる。 復習：授業を振り返り、疑問点を調べる。	
6.	しばらく疑問を至してついに明証を出だす	予習：「総序」を読み、分からない言葉を調べる。 復習：授業を振り返り、疑問点を調べる。	
7.	しばらく疑問を至してついに明証を出だす	予習：「総序」を読み、分からない言葉を調べる。 復習：授業を振り返り、疑問点を調べる。	
8.	毀謗を生ずることなかれ	予習：「総序」を読み、分からない言葉を調べる。 復習：授業を振り返り、疑問点を調べる。	
9.	「後序」の構成	予習：「総序」を読み、分からない言葉を調べる。 復習：授業を振り返り、疑問点を調べる。	
10.	承元の法難	予習：「総序」を読み、分からない言葉を調べる。 復習：授業を振り返り、疑問点を調べる。	
11.	承元の法難	予習：「総序」を読み、分からない言葉を調べる。 復習：授業を振り返り、疑問点を調べる。	
12.	雑行を棄てて本願に帰す	予習：「総序」を読み、分からない言葉を調べる。 復習：授業を振り返り、疑問点を調べる。	
13.	雑行を棄てて本願に帰す	予習：「総序」を読み、分からない言葉を調べる。 復習：授業を振り返り、疑問点を調べる。	
14.	到達目標確認試験	予習：「総序」を読み、分からない言葉を調べる。 復習：授業を振り返り、疑問点を調べる。	
15.	後期のまとめ	予習：「総序」を読み、分からない言葉を調べる。 復習：授業を振り返り、疑問点を調べる。	
教科書	『真宗聖典』		
参考書			
学習成果の評価方法	受講態度（50％）到達目標確認試験（50％）		
特記すべき事項	各授業において、予習2時間、復習2時間。		
質問・相談等の受付			

科 目	真宗学	開講時期 履修方法	2年前期 選択、専門科目
担当者	安武智丸	授業形態 単位数	講義 2単位
授業概要	インド・中国・日本三国の七祖は、それぞれの時代・社会が提起する人間の課題をもって釈尊の経説の真意を尋ね、その課題に応える道が本願念仏の教えであることを身をもって領かれた。しかも七祖はそれぞれ「前を訪ね、後を導く」ことで呼応し、真宗の伝統を培われた。その七祖のうち『正信偈』によって龍樹・天親・曇鸞三師が明らかにした仏道を学ぶ。本授業は仏教学科の学習成果(1)に対応する。		
到達目標	大乘仏教の課題と展開および基礎概念を把握した上で、宗祖親鸞聖人の仏教史観を理解する。		
学習成果の評価基準	到達目標の達成度を測るため、定期試験を実施し、6割以上の正答を求める。		
	授 業 計 画 (授 業 内 容)	授 業 時 間 外 学 習 予 習 ・ 復 習	
1 .	ガイダンス 大乘仏教の興隆と課題	『大乘の仏道』を読む	
2 .	本願名号のあゆみ -よきひとのおおせ-	『浄土の真宗』を読む	
3 .	仏者の伝統 -七祖を貫くもの-	『浄土の真宗』を読む	
4 .	龍樹菩薩 龍樹の生きた時代とその学び	『浄土の真宗』を読む	
5 .	龍樹菩薩 釈尊を受け継ぐもの -有無の見を破る-	『浄土の真宗』を読む	
6 .	龍樹菩薩 易行道を開く -菩薩道の課題-	『浄土の真宗』を読む	
7 .	龍樹菩薩 必定に入る -現生不退 即得往生-	『浄土の真宗』を読む	
8 .	天親菩薩 天親の生きた時代とその学び	『浄土の真宗』を読む	
9 .	天親菩薩 浄土を明かす -願生浄土-	『浄土の真宗』を読む	
10 .	天親菩薩 空過を超える -本願力に遇う-	『浄土の真宗』を読む	
11 .	天親菩薩 成仏の門 -五念門-	『浄土の真宗』を読む	
12 .	曇鸞大師 曇鸞の生きた時代とその学び	『浄土の真宗』を読む	
13 .	曇鸞大師 仙経を焼く -五濁の世 無仏の時-	『浄土の真宗』を読む	
14 .	曇鸞大師 回向の仏道 -他力回向-	『浄土の真宗』を読む	
15 .	曇鸞大師 如実なる行 -凡夫の仏道-	『浄土の真宗』を読む	
教科書	『真宗聖典』『真宗聖教全書』『大乘の仏道』『浄土の真宗』『正信偈』		
参考書			
学習成果の評価方法	受講態度(30%) 授業内課題(10%) 定期試験(60%)		
特記すべき事項	各授業において予習2時間、復習2時間を必要とする。		
質問・相談等の受付			

科目	真宗学	開講時期 履修方法	2年前期 選択、専門科目
担当者	権藤正信	授業形態 単位数	講義 2単位
授業概要	親鸞聖人は七祖を、その役割の上から論家と釈家に分けている。論家とは龍樹・天親・曇鸞の上三祖、釈家とは道綽・善導・源信・源空の下四祖をいう。特に下四祖は、「末法五濁」という時代社会と、そこに生きる「凡夫」という人間存在の課題を釈尊の教説にたずね、その課題に応える道が本願念仏の教えであることを身をもってうなずいていかれた。その一端を『正信偈』を通して学んでいく。 本授業は仏教学科の学習成果(1)に対応する。		
到達目標	『正信偈』道綽章・善導章・源信章・源空章の内容を理解できる。平易な漢文を訓読できる。道綽・善導・源信・源空の伝記と思想の概要を理解できる。		
学習成果の評価基準	定期試験において、6割以上の解答ができることを以て、到達目標を達成していると評価する。		
	授業計画(授業内容)	授業時間外学習 予習・復習	
1.	道綽禅師 聖道門と浄土門 「道綽決聖道難証 唯明浄土可通入」	『正信偈』道綽章を読んでおく	
2.	道綽禅師 他力の念仏 「万善自力貶勤修 円満徳号勸専称」	『正信偈』道綽章を読んでおく	
3.	道綽禅師 三不三信の教え 「三不三信誨慇懃 像末法滅同悲引」	『正信偈』道綽章を読んでおく	
4.	道綽禅師 誓願に遇うということ 「一生造悪値弘誓 至安養界証妙果」	『正信偈』道綽章を読んでおく	
5.	善導大師 独り仏の正意を明かす 「善導独明仏正意」	『正信偈』善導章を読んでおく	
6.	善導大師 悲しい凡夫を哀れむ 光明と名号 「矜哀定散与逆悪 光明名号顕因縁」	『正信偈』善導章を読んでおく	
7.	善導大師 金剛の信心 「開入本願大智海 行者正受金剛心」	『正信偈』善導章を読んでおく	
8.	善導大師 慶喜の一念 「慶喜一念相應後 与韋提等獲三忍 即証法性之常楽」]	『正信偈』善導章を読んでおく	
9.	源信僧都 偏に安養に帰す 「源信広開一代教 偏帰安養勸一切」	『正信偈』源信章を読んでおく	
10.	源信僧都 報土と化土 「専雑執心判浅深 報化二土正弁立」	『正信偈』源信章を読んでおく	
11.	源信僧都 極重の悪人 「極重悪人唯称仏 我亦在彼攝取中 煩惱障眼雖不見 大悲無倦常照我」	『正信偈』源信章を読んでおく	
12.	源空上人 善悪の凡夫人 「本師源空明仏教 憐愍善悪凡夫人」	『正信偈』源空章を読んでおく	
13.	源空上人 真宗 選択本願 「真宗教証興片州 選択本願弘悪世」	『正信偈』源空章を読んでおく	
14.	源空上人 疑いの心 「還来生死輪転家 決以疑情為所止」	『正信偈』源空章を読んでおく	
15.	源空上人 信ずる心 「速入寂靜無為楽 必以信心為能入」 まとめ 「弘經大士宗師等 拯濟無辺極濁悪 道俗時衆共同心 唯可信斯高僧説」	『正信偈』源空章を読んでおく	
教科書	『真宗聖典』 『真宗聖教全書一』		
参考書	『仏教辞典』 『漢和辞典』		
学習成果の評価方法	受講態度(30%) 定期試験(70%)		
特記すべき事項	配付資料が散逸しないよう、フラットファイルを用意すること。 各授業において予習2時間、復習2時間を必要とする。		
質問・相談等の受付	授業後、個別に、相談があれば受け付ける。		

科目	真宗聖教講読	開講時期 履修方法	2年前期 選択、専門科目
担当者	吉元信暁	授業形態 単位数	演習 1単位
授業概要	『歎異抄』を読むことを通して、親鸞聖人があきらかにした仏道を共に尋ねていく。 「おおたにカフェ」で『歎異抄』についての発表を行う。 また、卒業論文の作成に資するよう、発表形式でお互いに問いを深めていく。 本授業は仏教学科の学習成果(5)に対応する。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・『歎異抄』の言葉、内容が理解でき、それを他者に伝えることができる。(知識、表現力) ・発表用のレジュメを作成し、発表することができる。(思考力、表現力) ・発表に基づいてまわりと議論し(攻究)、課題を深めていくことができる。(判断力) 		
学習成果の評価基準	<ul style="list-style-type: none"> ・知識、思考力、表現力の達成度を測るために、「おおたにカフェ」に向けた資料準備の取り組みと発表内容を評価する。発表用レジュメ作成への取り組みと発表内容を評価する。 ・判断力の達成度を測るために、毎回の振り返りとレポートを実施して評価する。 		
	授業計画(授業内容)	授業時間外学習 予習・復習	
1.	ガイダンス シラバスの確認	シラバスを読む・ガイダンスの内容を振り返る	
2.	「おおたにカフェ」に向けた資料準備	資料準備の構想・授業内容を振り返る	
3.	「おおたにカフェ」に向けた資料準備	資料準備の構想・授業内容を振り返る	
4.	「おおたにカフェ」に向けた資料準備	資料準備の構想・授業内容を振り返る	
5.	「おおたにカフェ」に向けた資料準備	資料準備の構想・授業内容を振り返る	
6.	「おおたにカフェ」に向けた資料準備	資料準備の構想・授業内容を振り返る	
7.	「おおたにカフェ」での発表	発表準備・授業内容を振り返る	
8.	「おおたにカフェ」での発表の振り返り	発表準備・授業内容を振り返る	
9.	『歎異抄』「第2条」についての発表および攻究	発表準備・授業内容を振り返る	
10.	『歎異抄』「第2条」についての発表および攻究	発表準備・授業内容を振り返る	
11.	『歎異抄』「第2条」についての発表および攻究	発表準備・授業内容を振り返る	
12.	『歎異抄』「第3条」についての発表および攻究	発表準備・授業内容を振り返る	
13.	『歎異抄』「第3条」についての発表および攻究	発表準備・授業内容を振り返る	
14.	『歎異抄』「第3条」についての発表および攻究	発表準備・授業内容を振り返る	
15.	これまでの学習内容の振り返り レポート作成に向けて	これまでの振り返り・レポート作成に向けて	
教科書	『真宗聖典』、『新漢語林』、『古語林』、『仏教辞典』		
参考書	三明智彰『歎異抄講義』		
学習成果の評価方法	「おおたにカフェに向けた資料準備の取り組みと発表内容」(20%)、「発表用レジュメ作成への取り組みと発表内容」(20%)、「毎回の振り返り」(40%)、レポート(20%)		
特記すべき事項	各授業において予習30分、復習30分を必要とする。		
質問・相談等の受付	授業後、研究室、九州大谷Online等、いずれの方法も可。		

科目	真宗聖教講読	開講時期 履修方法	2年後期 選択、専門科目
担当者	吉元信暁	授業形態 単位数	演習 1単位
授業概要	『歎異抄』を読むことを通して、親鸞聖人があきらかにした仏道を共に尋ねていく。 「おおたにカフェ」で『歎異抄』についての発表を行う。 また、卒業論文の作成に資するよう、発表形式でお互いに問いを深めていく。 本授業は仏教学科の学習成果(5)に対応する。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・『歎異抄』の言葉、内容が理解でき、それを他者に伝えることができる。(知識、表現力) ・発表用のレジュメを作成し、発表することができる。(思考力、表現力) ・発表に基づいてまわりと議論し(攻究)、課題を深めていくことができる。(判断力) 		
学習成果の評価基準	<ul style="list-style-type: none"> ・知識、思考力、表現力の達成度を測るために、「おおたにカフェ」に向けた資料準備の取り組みと発表内容を評価する。発表用レジュメ作成への取り組みと発表内容を評価する。 ・判断力の達成度を測るために、毎回の振り返りとレポートを実施して評価する。 		
	授業計画(授業内容)	授業時間外学習 予習・復習	
1.	「おおたにカフェ」に向けた資料準備	資料準備の構想・授業内容を振り返る	
2.	「おおたにカフェ」に向けた資料準備	資料準備の構想・授業内容を振り返る	
3.	「おおたにカフェ」での発表	発表準備・授業内容を振り返る	
4.	「おおたにカフェ」での発表の振り返り	発表準備・授業内容を振り返る	
5.	『歎異抄』「第4条」についての発表および攻究	発表準備・授業内容を振り返る	
6.	『歎異抄』「第4条」についての発表および攻究	発表準備・授業内容を振り返る	
7.	『歎異抄』「第5条」についての発表および攻究	発表準備・授業内容を振り返る	
8.	『歎異抄』「第5条」についての発表および攻究	発表準備・授業内容を振り返る	
9.	『歎異抄』「第6条」についての発表および攻究	発表準備・授業内容を振り返る	
10.	『歎異抄』「第6条」についての発表および攻究	発表準備・授業内容を振り返る	
11.	『歎異抄』「第7条」についての発表および攻究	発表準備・授業内容を振り返る	
12.	『歎異抄』「第8条」についての発表および攻究	発表準備・授業内容を振り返る	
13.	『歎異抄』「第9条」についての発表および攻究	発表準備・授業内容を振り返る	
14.	『歎異抄』「第9条」についての発表および攻究	発表準備・授業内容を振り返る	
15.	これまでの学習内容の振り返り レポート作成に向けて	これまでの振り返り	
教科書	『真宗聖典』、『新漢語林』、『古語林』、『仏教辞典』		
参考書	三明智彰『歎異抄講義』		
学習成果の評価方法	「おおたにカフェ」に向けた資料準備の取り組みと発表内容(20%)、「発表用レジュメ作成への取り組みと発表内容(20%)」、「毎回の振り返り(40%)、レポート(20%)		
特記すべき事項	各授業において予習30分、復習30分を必要とする。		
質問・相談等の受付	授業後、研究室、九州大谷Online等、いずれの方法も可。		

科 目	教行信証講義	開講時期 履修方法	2年前期 選択、専門科目
担当者	三明智彰・青木 玲	授業形態 単位数	講義 1単位
授業概要	親鸞の主著であり、浄土真宗の立教開宗の「御本書」と呼ばれる『教行信証』（『顕浄土真実教行証文類』）を読み進めていきます。 九州大谷短期大学の授業を公開する趣旨から、現役学生と共に研修員、科目履修希望者など社会人も受講できます。 昨年度読んだ「信巻」の三心釈の欲生釈から読み進めていきます。 本授業は仏教学科の学習成果(4)に対応する。		
到達目標	様々な文献を読んで、自らの課題を深めていくことができる。（判断力） 浄土真宗の基本的な聖教、および釈尊、親鸞について理解できる。（知識） 自分で聖教を読むことができ、自らの課題を発見することができる。（思考力） 自らの課題を論文や発表、法話という形で表現することができる。（表現力） 『教行信証』を朗読でき、その内容が分かるようになる。		
学習成果の評価基準	授業中の朗読（15％）、質疑応答（15％）、小テスト（30％）、期末レポート（50％）		
	授 業 計 画（ 授 業 内 容 ）	授 業 時 間 外 学 習 予 習 ・ 復 習	
1 .	はじめに 『教行信証』の概要・欲生釈御自釈	予習は、事前に朗読。 復習は、事後の朗読と内容理解の確認。	
2 .	欲生釈御自釈 ・ 欲生釈引用文 ・ 経文証	予習は、事前に朗読。 復習は、事後の朗読と内容理解の確認。	
3 .	欲生釈引用文 ・ 釈文証・『論註』の文	予習は、事前に朗読。 復習は、事後の朗読と内容理解の確認。	
4 .	共同学習	予習は、疑問点の確認。 復習は、内容理解の確認。	
5 .	欲生釈引用文 ・ 釈文証・『論註』の文、『観経疏』『散善義』の文	予習は、事前に朗読。 復習は、事後の朗読と内容理解の確認。	
6 .	白道四五寸釈	予習は、事前に朗読。 復習は、事後の朗読と内容理解の確認。	
7 .	共同学習	予習は、疑問点の確認。 復習は、内容理解の確認。	
8 .	能生清浄願心釈 前期まとめ	予習は、事前に朗読。 復習は、事後の朗読と内容理解の確認。	
9 .			
10 .			
11 .			
12 .			
13 .			
14 .			
15 .			
教科書	『親鸞聖人真蹟集成』第1巻（授業担当者が準備する）、真宗聖典（東本願寺）		
参考書	山辺・赤沼『教行信証講義』（法蔵館）ほか適宜紹介する。		
学習成果の評価方法	授業中の朗読（15％）、質疑応答（15％）、小テスト（30％）、期末レポート（50％）によって、到達目標の達成度を評価する。		
特記すべき事項	積極的授業参加、原文朗読の練習、コミュニケーション能力を磨く。 各授業において、予習30分、復習30分。		
質問・相談等の受付	授業中は口頭・文章で、授業外は火曜日から金曜日中のメールで早めに対応します。		

科 目	教行信証講義	開講時期 履修方法	2年後期 選択、専門科目
担当者	三明智彰・青木 玲	授業形態 単位数	講義 1単位
授業概要	親鸞の主著であり、浄土真宗の立教開宗の「御本書」と呼ばれる『教行信証』（『顕浄土真実教行証文類』）を読み進めていきます。 九州大谷短期大学の授業を公開する趣旨から、現役学生と共に研修員、科目履修希望者など社会人も受講できます。 前期の続きから読み進めていきます。 本授業は仏教学科の学習成果(4)に対応する。		
到達目標	様々な文献を読んで、自らの課題を深めていくことができる。(判断力) 浄土真宗の基本的な聖教、および釈尊、親鸞について理解できる。(知識) 自分で聖教を読むことができ、自らの課題を発見することができる。(思考力) 自らの課題を論文や発表、法話という形で表現することができる。(表現力) 『教行信証』を朗読でき、その内容が分かるようになる。		
学習成果の評価基準	授業中の朗読(15%)、質疑応答(15%)、小テスト(20%)、期末レポート(50%)		
	授 業 計 画 (授 業 内 容)	授 業 時 間 外 学 習 予 習 ・ 復 習	
1 .	前期の振り返りと後期の展望	予習は、事前に朗読。 復習は、事後の朗読と内容理解の確認。	
2 .	善導『観経疏』の三文	予習は、事前に朗読。 復習は、事後の朗読と内容理解の確認。	
3 .	三心結釈	予習は、事前に朗読。 復習は、事後の朗読と内容理解の確認。	
4 .	共同学習	予習は、疑問点の確認。 復習は、内容理解の確認。	
5 .	大信海釈	予習は、事前に朗読。 復習は、事後の朗読と内容理解の確認。	
6 .	菩提心釈・御自釈	予習は、事前に朗読。 復習は、事後の朗読と内容理解の確認。	
7 .	共同学習	予習は、疑問点の確認。 復習は、内容理解の確認。	
8 .	菩提心釈・『論註』の文	予習は、事前に朗読。 復習は、事後の朗読と内容理解の確認。	
9 .			
10 .			
11 .			
12 .			
13 .			
14 .			
15 .			
教科書	『親鸞聖人真蹟集成』第1巻(授業担当者が準備する)、真宗聖典(東本願寺)		
参考書	山辺・赤沼『教行信証講義』(法蔵館)ほか適宜紹介する。		
学習成果の評価方法	授業中の朗読(15%)、質疑応答(15%)、小テスト(30%)、期末レポート(50%)によって、到達目標の達成度を評価する。		
特記すべき事項	積極的授業参加、原文朗読の練習、コミュニケーション能力を磨く。 各授業において、予習30分、復習30分。		
質問・相談等の受付	授業中は口頭・文章で、授業外は火曜日から金曜日中のメールで早めに対応します。		

科 目	仏典講読	開講時期 履修方法	2年後期 選択、専門科目
担当者	調 友希雄	授業形態 単位数	演習 1単位
授業概要	親鸞聖人は、『仏説無量寿経』、『仏説観無量寿経』、『仏説阿弥陀経』を浄土三部経として大切にされた。本科目では、その中の『仏説阿弥陀経』を読んでいく。 本授業は仏教学科の学習成果(3)に対応する。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・『阿弥陀経』とは何かを理解する。 ・『阿弥陀経』(漢文)を声に出して読むことができる。 ・漢和辞典や仏教辞典で経典のことばを調べ、意味を取ることができる。 ・発表用のレジュメを作成し、発表し、自らの課題を発見することができる。 ・発表に基づいてまわりと議論し、自らの課題を深めていくことができる。 		
学習成果の評価基準	『阿弥陀経』とは何かの理解の達成度を測るために、到達度確認の小テスト及び授業内試験において、6割以上の解答ができることを評価基準とする。 授業内における積極的な発表・議論を「受講態度」の評価とする。		
	授 業 計 画 (授 業 内 容)	授 業 時 間 外 学 習 予 習 ・ 復 習	
1 .	ガイダンス・授業概要の確認	授業要覧を読む	
2 .	『阿弥陀経』とは何か	『真宗聖教全書一』を読む	
3 .	『阿弥陀経』とは何か 「『阿弥陀経』とは何か」についての小テスト	『真宗聖教全書一』を読む	
4 .	序分	ノートを作成する	
5 .	正宗分(1)讃極楽依正	ノートを作成する	
6 .	正宗分(1)讃極楽依正	ノートを作成する	
7 .	正宗分(1)讃極楽依正	ノートを作成する	
8 .	序分および正宗分の讃極楽依正についての小テスト	ノートを作成する	
9 .	正宗分(2)勸念仏往生	ノートを作成する	
10 .	正宗分(2)勸念仏往生	ノートを作成する	
11 .	正宗分(2)勸念仏往生	ノートを作成する	
12 .	流通分 正宗分の勸念仏往生についての小テスト	ノートを作成する	
13 .	これまでの学習内容の振り返り(『阿弥陀経』についての発表・議論)	ノートを振り返り整理する	
14 .	これまでの学習内容とその受け止めについての授業内試験	ノートを振り返り整理する	
15 .	授業内試験についての振り返り	試験内容を復習する	
教科書	『真宗聖典』、『真宗聖教全書一』、『岩波仏教辞典』、『新漢語林』、『古語林』		
参考書	なし		
学習成果の評価方法	受講態度(30%) 小テスト(30%) その他【授業内試験】(40%)		
特記すべき事項	各授業において予習30分、復習30分を必要とする。		
質問・相談等の受付	担当者に、直接お伝えください。メール、電話等でも受け付けます。		

科 目	宗教法規	開講時期 履修方法	2年後期 選択、専門科目
担当者	小田朋隆	授業形態 単位数	講義 2単位
授業概要	宗教学法人法、寺院規則および真宗大谷派宗憲等の基本を学び、現代における仏教、教団および寺院の存在意義を考察する。本授業は仏教学科の学習成果(6)に対応する。		
到達目標	国法（憲法や宗教学法人法）と宗法（宗憲や諸条例）と仏法（仏教）の相互関係を課題的に受けとめ、かつそれらと自己自身との関係について認識を深める。		
学習成果の 評価基準	法の成り立ちと作用に関する認識度を評価基準とする。		
	授 業 計 画 (授 業 内 容)	授業時間外学習 予習・復習	
1 .	当科目の全容の概説、アンケート	シラバス確認	
2 .	基本法規の概説 1	全体像の仮定	
3 .	基本法規の概説 2	各法規の役割	
4 .	法制の背景としての教団史 1	歴史を学ぶ意味	
5 .	法制の背景としての教団史 2	法制の変化	
6 .	法制の背景としての教団史 3	教団の構造	
7 .	同朋会運動と教団問題 1	信仰運動の動機	
8 .	同朋会運動と教団問題 2	問題の所在	
9 .	宗憲の意義	現行法の具体性	
10 .	宗教学法人法の意義	現行法の具体性	
11 .	寺院規則、真宗大谷派規則の意義	現行法の具体性	
12 .	教団論 1	共同体の意義	
13 .	教団論 2	共同体の意義	
14 .	教学と教化（法の作用と誤用）	宗教活動の本旨	
15 .	仏教学としての「宗教法規」	全体像の再構築	
教科書	『真宗大谷派宗憲 宗教学法人法』、『教団の歩み』、『真宗聖典』		
参考書			
学習成果の 評価方法	受講態度50% 定期試験50%		
特記すべき 事項	担当者の実務経験：真宗大谷派宗務役員、教学研究所属員、宗教学法人代表役員（現職） 各授業において予習2時間、復習2時間を必要とする。		
質問・相談等 の 受 付	メール対応可（アドレスは授業時に提示する）		

科 目	声明作法	開講時期 履修方法	2年前期 選択、専門科目
担当者	竹下秀覚	授業形態 単位数	演習 1単位
授業概要	「声明作法」は、真宗大谷派の勤行形式で「昭和法要式」で行う。主に「伽陀、仏説阿弥陀経、和讃、音木」など、ご法事を中心に学ぶ。 本授業は仏教学科の学習成果(2)に対応する。		
到達目標	お聖教を唱和することの大切さを感じることが出来るようになる。 正確に読めるようになる。		
学習成果の 評価基準	到達目標に明示している「お聖教の唱和の大切さ」「正確に読む」の達成度を測るために、到達度確認テストを実施し評価する。		
	授 業 計 画 (授 業 内 容)	授業時間外学習 予習・復習	
1.	お経を読む(仏説阿弥陀経)	授業の復習	
2.	お経を読む(仏説阿弥陀経)同朋奉賛式	授業の復習	
3.	お経を読む(仏説阿弥陀経)	授業の復習	
4.	お経を読む(仏説阿弥陀経)	授業の復習	
5.	伽陀、仏阿弥陀経、和讃	授業の復習	
6.	伽陀、仏阿弥陀経、和讃	授業の復習	
7.	伽陀、仏阿弥陀経、和讃	授業の復習	
8.	伽陀、仏阿弥陀経、和讃	授業の復習	
9.	伽陀、仏阿弥陀経、和讃、音木	授業の復習	
10.	伽陀、仏阿弥陀経、和讃、音木	授業の復習	
11.	伽陀、仏阿弥陀経、和讃、音木	授業の復習	
12.	伽陀、仏阿弥陀経、和讃、音木	授業の復習	
13.	正信偈草四句目下、念佛和讃三淘	授業の復習	
14.	伽陀、仏阿弥陀経、和讃	授業の復習	
15.	伽陀、仏阿弥陀経、和讃、音木	授業の復習	
教科書	大谷声明集、御文稽古本、真宗の儀式		
参考書			
学習成果の 評価方法	受講態度 20% 達成度確認 20% 定期試験 60%		
特記すべき 事項	各授業において予習30分、復習30分を必要とする。		
質問・相談等 の受付			

科目	声明作法	開講時期 履修方法	2年後期 選択、専門科目
担当者	竹下秀覚	授業形態 単位数	演習 1単位
授業概要	「声明作法」は、真宗大谷派の通夜・葬儀の勤行について学ぶ。また遺族の気持ち（グリーフ）に配慮した儀式執行についても学ぶ。 本授業は仏教学科の学習成果(2)に対応する。		
到達目標	お聖教を唱和することの大切さを感じることが出来るようになる。 正確に読めるようになる。		
学習成果の評価基準	到達目標に明示している「お聖教の唱和の大切さ」「正確に読む」の達成度を測るために、到達度確認テストを実施し評価する。		
	授業計画(授業内容)	授業時間外学習 予習・復習	
1.	通夜・葬儀について	授業の復習	
2.	通夜・葬儀について	授業の復習	
3.	通夜・葬儀について	授業の復習	
4.	通夜・葬儀について	授業の復習	
5.	通夜・葬儀について	授業の復習	
6.	通夜・葬儀について	授業の復習	
7.	通夜・葬儀について	授業の復習	
8.	通夜・葬儀について	授業の復習	
9.	通夜・葬儀について	授業の復習	
10.	通夜・葬儀について	授業の復習	
11.	通夜・葬儀について	授業の復習	
12.	通夜・葬儀について	授業の復習	
13.	通夜・葬儀について	授業の復習	
14.	正信偈真四句目下、念佛和讃五淘	授業の復習	
15.	通夜・葬儀について	授業の復習	
教科書	大谷声明集、御文稽古本、真宗の儀式		
参考書			
学習成果の評価方法	受講態度 20% 達成度確認 20% 定期試験 60%		
特記すべき事項	各授業において予習30分、復習30分を必要とする。		
質問・相談等の受付			

科目	真宗と社会	開講時期 履修方法	2年前期 選択、専門科目
担当者	木屋行深	授業形態 単位数	講義 2単位
授業概要	「真宗と社会」では、様々な現場において活動されている方々から、その現実と課題について講義をしていただき、座談形式で学習・攻究を行う。 本授業は仏教学科の学習成果(6)に対応する。		
到達目標	講義や学習・攻究を通して、社会の諸問題に眼を開くと共に、真宗を学ぶ者として、この社会でどのように生きていくのかについて考える		
学習成果の評価基準	到達目標の達成度を測るため、社会の諸問題を自分の課題としてどう捉えるのかを、積極的な授業参加(受講態度)と定期試験で評価する。		
	授業計画(授業内容)	授業時間外学習 予習・復習	
1.	なぜ社会の問題が真宗の課題なのか		
2.	なぜ社会の問題が真宗の課題なのか	配付資料を読む	
3.	真宗とジェンダー	配付資料を読む	
4.	真宗とジェンダー ゲストスピーカー：草野龍子先生	配付資料を読む	
5.	真宗とジェンダー	配付資料を読む	
6.	真宗と靖国問題	配付資料を読む	
7.	真宗と靖国問題	配布資料を読む	
8.	真宗と靖国問題	レポート作成	
9.	真宗と教誨 ゲストスピーカー：古賀祐法先生	配付資料を読む	
10.	真宗と教誨	配付資料を読む	
11.	真宗と教誨	配付資料を読む	
12.	真宗とグリーンケア ゲストスピーカー：中島 航先生	配付資料を読む	
13.	真宗とグリーンケア ゲストスピーカー：中島 航先生	配付資料を読む	
14.	真宗とグリーンケア	配布資料を読む	
15.	まとめ		
教科書	各テーマごとに資料を随時配布する。		
参考書			
学習成果の評価方法	受講態度(60%) 定期試験(40%)		
特記すべき事項	各授業において予習2時間、復習2時間を必要とする。		
質問・相談等の受付			

科目	教化学実習	開講時期 履修方法	2年前期 必修、専門科目
担当者	中島 航	授業形態 単位数	演習 1単位
授業概要	1、2年生合同で「夏の法要」に向けた企画・学習・準備などを行い、計画に基づいて実施する。共同して一つの法要に取り組んでいくことを通して、現場に応ずる学びを深めていく内容。 本授業は仏教学科の学習成果(8)に対応する。		
到達目標	法要の概要や目的を理解することができる。 協働して法要を勤めることができるようになる。		
学習成果の 評価基準	授業態度として法要の企画や準備を積極的に行っているか、他者と協力し合うことができているかを評価する。また前期の振り返りとして学期末のレポート提出でも評価する。		
	授業計画(授業内容)		授業時間外学習 予習・復習
1.	ガイダンス 概要の確認と係の決定		「授業要覧」を読む
2.	事前準備	法要の企画を行う(1)	係ごとの話し合いや学習への取り組み
3.	事前準備	法要の企画を行う(2)	係ごとの話し合いや学習への取り組み
4.	事前準備	法要の学習を考える(1)	係ごとの話し合いや学習への取り組み
5.	事前準備	法要の学習を考える(2)	係ごとの話し合いや学習への取り組み
6.	事前準備	勤行の練習をする(1)	係ごとの話し合いや学習への取り組み
7.	事前準備	勤行の練習をする(2)	係ごとの話し合いや学習への取り組み
8.	事前準備	勤行の練習をする(3)	係ごとの話し合いや学習への取り組み
9.	事前準備	法要の準備を行う(1)	係ごとの話し合いや学習への取り組み
10.	事前準備	法要の準備を行う(2)	係ごとの話し合いや学習への取り組み
11.	事前準備	法要の準備を行う(3)	係ごとの話し合いや学習への取り組み
12.	事前準備	法要のリハーサルを行う	係ごとの話し合いや学習への取り組み
13.	「夏の法要」 讃歌(真宗宗歌、回向、恩徳讃)、勤行(「正信偈」草四句目下、三洵)、学習発表、講話 など		夏の法要の要項をもとに準備を行う
14.	「夏の法要」 讃歌(真宗宗歌、回向、恩徳讃)、勤行(「正信偈」草四句目下、三洵)、学習発表、講話 など		夏の法要の要項をもとに準備を行う
15.	事後総括 法要を総括する		係ごとの話し合い
教科書			
参考書			
学習成果の 評価方法	授業態度(70%)、定期試験(30%)		
特記すべき 事項	各授業において予習30分、復習30分を必要とする。		
質問・相談 の受付			

科 目	教化学実習	開講時期 履修方法	2年後期 必修、専門科目
担当者	中島 航	授業形態 単位数	演習 1単位
授業概要	1、2年生合同で仏教学科報恩講「冬の法要」に向けた企画・学習・準備などを行い、計画に基づいて実施する。協働して一つの法要に取り組んでいくことを通して、現場に心づく学びを深めていく内容。本授業は仏教学科の学習成果(8)に対応する。		
到達目標	法要の概要や目的を理解することができる。 協働して法要を勤めることができるようになる。		
学習成果の 評価基準	授業態度として法要の企画や準備を積極的に行っているか、他者と協力し合うことができているかを評価する。 また後期の振り返りとして学期末のレポートでも評価する。		
	授 業 計 画 (授 業 内 容)		授業時間外学習 予習・復習
1.	ガイダンス 概要の確認と係の決定		「授業要覧」を読む
2.	事前準備 法要の企画を行う(1)		係ごとの話し合いや学習への取り組み
3.	事前準備 法要の企画を行う(2)		係ごとの話し合いや学習への取り組み
4.	事前準備 法要の学習を考える(1)		係ごとの話し合いや学習への取り組み
5.	事前準備 法要の学習を考える(2)		係ごとの話し合いや学習への取り組み
6.	事前準備 勤行の練習をする(1)		係ごとの話し合いや学習への取り組み
7.	事前準備 勤行の練習をする(2)		係ごとの話し合いや学習への取り組み
8.	事前準備 勤行の練習をする(3)		係ごとの話し合いや学習への取り組み
9.	事前準備 法要の準備を行う(1)		係ごとの話し合いや学習への取り組み
10.	事前準備 法要の準備を行う(2)		係ごとの話し合いや学習への取り組み
11.	事前準備 法要の準備を行う(3)		係ごとの話し合いや学習への取り組み
12.	事前準備 法要のリハーサルを行う		係ごとの話し合いや学習への取り組み
13.	仏教学科報恩講「冬の法要」 讃歌(真宗宗歌、回向、恩徳讃)、勤行(「正信偈」真四句目下、五洵)、学習発表、法話 など		冬の法要の要項をもとに準備を行う
14.	仏教学科報恩講「冬の法要」 讃歌(真宗宗歌、回向、恩徳讃)、勤行(「正信偈」真四句目下、五洵)、学習発表、講話 など		冬の法要の要項をもとに準備を行う
15.	事後総括 法要を総括する		係ごとの話し合い
教科書			
参考書			
学習成果の 評価方法	授業態度(70%)、定期試験(30%)		
特記すべき 事項	各授業において予習30分、復習30分を必要とする。		
質問・相談 の受付			

科目	法話基礎実習	開講時期 履修方法	2年前期 選択、専門科目
担当者	中島 航・吉元信暁	授業形態 単位数	演習 1単位
授業概要	法話とは、私たちに語りかけてくるお聖教の言葉（法語）について、自分の体験を通して他人にも分かる言葉で話すことである。前期は、法話とは何なのか、どのような内容なのか、そして、法話の目的は何なのかを考え、アクティブラーニングを実施する。		
到達目標	法話とは何かを知り、原稿を考えて法話を行うことができる。日々の学びを法話として表現できるようになる。法話の聞き手、さらには普段、僧侶として接する目の前の人の気持ちを理解し、考える力を身につけることができる。		
学習成果の評価基準	授業の事前準備や小レポートの提出、授業中やグループワークにおける積極的な参加をもって「授業態度」の評価とする。また学期末に行う法話実習（学内で法話の実施）においても評価する。		
	授業計画（授業内容）	授業時間外学習 予習・復習	
1.	ガイダンス 授業概要のオリエンテーション	シラパスを読んでおく	
2.	法話とは何かを学ぶ 「教化とは」 : 吉元信暁	法話とは何か考える	
3.	法話とは何かを学ぶ 「自信教人信とは」 : 吉元信暁	法話とは何か考える	
4.	法話について考える座談（グループワーク）	「法話について」という小レポートを準備してくる	
5.	法話を聞く 1 - 学外に法話を聞きに行く（鶯音忌法要：光善寺）	他の授業の振り返り	
6.	法話を聞く 1 - 学外に法話を聞きに行く（鶯音忌法要：光善寺）	他の授業の振り返り	
7.	法話を聞く 2 - 学外に法話を聞きに行く（教区定例法話）	他の授業の振り返り	
8.	法話を聞く 2 - 学外に法話を聞きに行く（教区定例法話）	他の授業の振り返り	
9.	法話原稿作成に関するオリエンテーション	他の授業の振り返り	
10.	法話原稿作成 法話の題材である「白骨の御文」を学ぶ	他の授業の振り返り	
11.	法話原稿作成 法話実習の原稿を考える	他の授業の振り返り	
12.	法話原稿作成 法話実習の原稿を考える	原稿の準備をしてくる	
13.	法話原稿作成 法話実習の原稿を考える	原稿の準備をしてくる	
14.	法話実習のリハーサル 学内でリハーサルをする：吉元信暁	原稿の準備をしてくる	
15.	法話実習 学内で法話を実施する : 吉元信暁	法話の準備	
教科書	『真宗聖典』		
参考書			
学習成果の評価方法	授業態度（課題に対する取り組み姿勢など）（70%）、学期末法話実習（30%）		
特記すべき事項	各授業において予習30分、復習30分を必要とする。		
質問・相談等の受付			

科 目	法話基礎実習	開講時期 履修方法	2年後期 選択、専門科目
担当者	中島 航・吉元信暁	授業形態 単位数	演習 1単位
授業概要	法話とは、私たちに語りかけてくるお聖教の言葉（法語）について、自分の体験を通して他人にも分かる言葉で話すことである。後期の学びは、2回ある法話実習での発表が中心となる。寺院での法話実習や、仏教学科報恩講での法話など、より実践的なアクティブラーニングを実施する。また「グリーフ」の学びや「人が亡くなりゆくこと」についても学び、僧侶として、人と向き合うとはどういうことかも考察していく。		
到達目標	法話とは何かを知り、原稿を考えて法話を行うことができる。日々の学びを法話として表現できるようになる。目の前の人に向き合ううえで大切なことは何かを考えて人と関わる力を身につけることができる。		
学習成果の 評価基準	授業の事前準備や小レポートの提出、授業中やグループワークにおける積極的な参加をもって「授業態度」の評価とする。また寺院法話実習（近隣寺院で法話実施）についても評価する。学期末レポート試験（「冬の法要」法話原稿提出）。		
	授 業 計 画（ 授 業 内 容 ）	授 業 時 間 外 学 習 予 習 ・ 復 習	
1 .	法話基礎実習 の振り帰り : 吉元信暁	シラパスを読んでおく	
2 .	「聴く」と「対話」 : ゲストスピーカー 臨床心理士の教員から人と人との対話について学ぶ	前期の学びを振り返っておく	
3 .	人が亡くなりゆくことと、その家族の気持ちについて学ぶ	前期の学びを振り返っておく	
4 .	「グリーフの学び」 僧侶と遺族のロールプレイを実施する	前期の学びを振り返っておく	
5 .	法話原稿作成 後期の法話作成についてのオリエンテーション	法話のテーマを考えてくる	
6 .	法話原稿作成 寺院法話実習での法話原稿を作成する	原稿を準備してくる	
7 .	法話の発声、立ち振る舞いを学ぶ : ゲストスピーカー 表現学科の教員より発声、話し方、立ち振る舞いを学ぶ	原稿を準備してくる	
8 .	寺院法話実習 近隣の寺院で法話を実施する	原稿を準備してくる	
9 .	寺院法話実習 近隣の寺院で法話を実施する	原稿を準備してくる	
10 .	法話実習（近隣寺院）の振り返り	小レポート提出	
11 .	法話原稿作成 仏教学科報恩講での法話原稿を作成する	法話のテーマを考えてくる	
12 .	法話原稿作成	原稿を準備してくる	
13 .	法話原稿作成 : 吉元信暁	原稿を準備してくる	
14 .	法話実習（「仏教学科報恩講」の法話）リハーサル : 吉元信暁	原稿を準備してくる	
15 .	法話実習（「仏教学科報恩講」の法話） リハーサル : 吉元信暁	原稿を準備してくる	
教科書	『真宗聖典』		
参考書			
学習成果の 評価方法	授業態度（60%）、寺院法話実習（20%）、学期末レポート試験（20%）		
特記すべき 事項	「仏教学科報恩講」当日は、当授業ではなく「教化学実習」の出席とする。 各授業において予習30分、復習30分を必要とする。		
質問・相談等 の 受 付			

科目	課題研究	開講時期 履修方法	2年前期 選択、専門科目
担当者	青木 玲	授業形態 単位数	演習 1単位
授業概要	卒業論文の提出に向けて、自らの課題を明確にする。前期は、卒業論文の中間発表を目標に、授業の中で発表を行う。本授業は仏教学科の学習成果(5)に対応する。		
到達目標	自らの課題を論文や発表、法話という形で表現することができる。(表現力) 浄土真宗の基本的な聖教、および釈尊、親鸞について理解できる。(知識) 自分で聖教を読むことができ、自らの課題を発見することができる。(思考力) 様々な文献を読んで、自らの課題を深めていくことができる。(判断力) 自らの課題を明確にし、7月に卒業論文の中間発表を行う。		
学習成果の 評価基準	授業内での発表を「授業内発表」の評価とする。		
	授業計画(授業内容)	授業時間外学習 予習・復習	
1.	授業概要	予習:「授業要覧」を読み、発表の準備をする。 復習:授業を振り返り、疑問点を確認する。	
2.	レジュメの作り方	予習:「授業要覧」を読み、発表の準備をする。 復習:授業を振り返り、疑問点を確認する。	
3.	発表・質疑応答	予習:発表の準備をする。 復習:授業を振り返り、疑問点を確認する。	
4.	発表・質疑応答	予習:発表の準備をする。 復習:授業を振り返り、疑問点を確認する。	
5.	発表・質疑応答	予習:発表の準備をする。 復習:授業を振り返り、疑問点を確認する。	
6.	発表・質疑応答	予習:発表の準備をする。 復習:授業を振り返り、疑問点を確認する。	
7.	発表・質疑応答	予習:発表の準備をする。 復習:授業を振り返り、疑問点を確認する。	
8.	発表・質疑応答	予習:発表の準備をする。 復習:授業を振り返り、疑問点を確認する。	
9.	発表・質疑応答	予習:発表の準備をする。 復習:授業を振り返り、疑問点を確認する。	
10.	発表・質疑応答	予習:発表の準備をする。 復習:授業を振り返り、疑問点を確認する。	
11.	発表・質疑応答	予習:発表の準備をする。 復習:授業を振り返り、疑問点を確認する。	
12.	発表・質疑応答	予習:発表の準備をする。 復習:授業を振り返り、疑問点を確認する。	
13.	発表・質疑応答	予習:発表の準備をする。 復習:授業を振り返り、疑問点を確認する。	
14.	卒業論文中間発表	予習:発表の準備をする。 復習:授業を振り返り、疑問点を確認する。	
15.	卒業論文中間発表	予習:発表の準備をする。 復習:授業を振り返り、疑問点を確認する。	
教科書	『真宗聖典』		
参考書			
学習成果の 評価方法	受講態度(50%) 授業内発表(50%)		
特記すべき 事項	各授業において、予習30分、復習30分。		
質問・相談 の受付			

科目	課題研究	開講時期 履修方法	2年後期 選択、専門科目
担当者	青木 玲・吉元信暁	授業形態 単位数	演習 1単位
授業概要	卒業論文の内容を明確にすることを目標に発表を行う。 本授業は仏教学科の学習成果(5)に対応する。		
到達目標	自らの課題を論文や発表、法話という形で表現することができる。(表現力) 浄土真宗の基本的な聖教、および釈尊、親鸞について理解できる。(知識) 自分で聖教を読むことができ、自らの課題を発見することができる。(思考力) 様々な文献を読んで、自らの課題を深めていくことができる。(判断力) 11月に卒業論文の発表を行い、1月には卒業論文を提出する。		
学習成果の 評価基準	授業内での発表を「授業内発表」の評価とする。		
	授業計画(授業内容)	授業時間外学習 予習・復習	
1.	授業概要	予習：発表の準備をする。 復習：授業を振り返り、疑問点を確認する。	
2.	発表・質疑応答	予習：発表の準備をする。 復習：授業を振り返り、疑問点を確認する。	
3.	発表・質疑応答	予習：発表の準備をする。 復習：授業を振り返り、疑問点を確認する。	
4.	発表・質疑応答	予習：発表の準備をする。 復習：授業を振り返り、疑問点を確認する。	
5.	発表・質疑応答	予習：発表の準備をする。 復習：授業を振り返り、疑問点を確認する。	
6.	発表・質疑応答	予習：発表の準備をする。 復習：授業を振り返り、疑問点を確認する。	
7.	発表・質疑応答	予習：発表の準備をする。 復習：授業を振り返り、疑問点を確認する。	
8.	発表・質疑応答	予習：発表の準備をする。 復習：授業を振り返り、疑問点を確認する。	
9.	発表・質疑応答	予習：発表の準備をする。 復習：授業を振り返り、疑問点を確認する。	
10.	発表・質疑応答	予習：発表の準備をする。 復習：授業を振り返り、疑問点を確認する。	
11.	発表・質疑応答	予習：発表の準備をする。 復習：授業を振り返り、疑問点を確認する。	
12.	発表・質疑応答	予習：発表の準備をする。 復習：授業を振り返り、疑問点を確認する。	
13.	発表・質疑応答	予習：発表の準備をする。 復習：授業を振り返り、疑問点を確認する。	
14.	卒業論文発表	予習：発表の準備をする。 復習：授業を振り返り、疑問点を確認する。	
15.	卒業論文発表	予習：発表の準備をする。 復習：授業を振り返り、疑問点を確認する。	
教科書	『真宗聖典』		
参考書			
学習成果の 評価方法	受講態度(50%) 授業内発表(50%)		
特記すべき 事項	各授業において、予習30分、復習30分。		
質問・相談 の受付			

科 目	卒業論文	開講時期 履修方法	2年後期 必修、専門科目
担当者	三明智彰	授業形態 単位数	演習 1単位
授業概要	<p>本学仏教学科の学びの集大成として、各自の研究課題に基づく研究成果を論文の形で発表します。 本授業は仏教学科の学習成果(5)に対応する。</p>		
到達目標	<p>自分自身の仏教の受け止めを誤りなく正確に論述することができるようになる。</p>		
学習成果の 評価基準	<p>論文の内容と口頭試問によって、読解力、思考力、表現力、コミュニケーション能力の達成度を判断評価する（各25％）。</p>		
	授 業 計 画 (授 業 内 容)	授業時間外学習 予習・復習	
1 .			
2 .			
3 .			
4 .			
5 .			
6 .			
7 .			
8 .			
9 .			
10 .			
11 .			
12 .			
13 .			
14 .			
15 .			
教科書			
参考書			
学習成果の 評価方法	<p>卒業論文と口頭試問 詳細を年度初めに説明します。</p>		
特記すべき 事項	<p>読解力、思考力、表現力、コミュニケーション能力を無学用に勤める。</p>		
質問・相談 の受付	<p>授業と平日日中のメールに随時応答します。</p>		